

2023年度絵画科油画専攻学部入学試験 出題意図

■一次試験

出題文

「本日、午前7時のあなたの手を描いてください。」(2/25)

「昨日、午後10時のあなたの足を描いてください。」(2/26)

※受験者数が多数であること及びコロナ感染対策を鑑み、受験生を試験日二日間のいずれかに分割する対策を行なった。

1次試験・2次試験を通して、絵画のモチーフとしてよく指定される身体やモデルという存在を改めて日常と地続きのものとして再認識し、その違いに反応しながら自分の表現につなげられるか、という感受性を問う課題である。

1次試験では、デッサンのモチーフとしてよく扱われる「手」や「足」という、自分の身体を描写するシンプルな課題だが、そこに時間の指定というほんの少しの制約と場面設定の示唆が加えられている。身体を単に描くためのモチーフとしてではなく、「あなた」の一部として描くこと、「あなた」の生活場面の一部として描くことを求めている。

言葉の解釈への感受性を見ると共に、「あなた」の一部をどう設定すればあなた自身の物語を描くことができるか、という演出力・構成力とそれを描ききる表現力を問う課題である。

■二次試験

出題文

〈出題Ⅰ〉「この人を描きなさい。」

〈出題Ⅱ〉「第1次実技試験「素描」と第2次実技試験「絵画」において、あなたが大切にしたいことを踏まえて、次に描きたい作品プラン（構想）をエスキースしなさい。」

第2次実技試験の三日間のうち、第1・2日目に〈出題Ⅰ〉（油彩・F20号キャンバス）、第3日目には〈出題Ⅱ〉（素描・スケッチブック）を課した。スケッチブックのページ前半の用紙は出題Ⅰのみ自由に使用可能。出題Ⅱでは、封印されたページ後半の用紙の封を切って使用。

〈出題Ⅰ〉では人物（着衣モデル）をモチーフとして出題した。ただし中央の椅子に着座した「この人」とは、「人体」などという記号的な存在ではなく、固有の身体・ルーツ・主張を有する人物であり、数時間毎に「私についての話」を朗読する。受験生は「この人」の姿形を静物モチーフと同じように写生することもできるし、いわゆる「イメージ課題」のように、モデルたちが語るナラティブ・ストーリーを絵画化することもできる。あるいは、自己と他者（モデル）の「見る／見られる」関係性から絵画空間を構築してもよい。

スケッチブックを用いた〈出題Ⅱ〉では、そうした各々の人間観察からの絵画表現のプロセスを確認した。

本題はこのように受験生の特性や習熟度に応じて、いくつもの絵画化へのアプローチを可能だが、最も重要なポイントとしては、眼前の他者と真摯に向き合い、観察し、想像し、自己の表現との創造的関係を結ぶことができる力を問うものである。

■二次試験 | 面接試験

設問は以下の通り。特に1と2は、面接時間内に必須の質問とした。

大学で何を学びたいかというシンプルな設問は、自身の意欲や目的に対していかに自覚的であるかを問うものである。また2の設問は実技試験の実体験を踏まえ、創意工夫や観点を具体的に言語化し得るかを問うた。所定時間の残余がまだある受験生には、3の設問を付け加えた。

1. あなたが東京藝術大学の油画科を志望する動機について述べて下さい。
2. 第1次実技試験であなたが描いた、素描について自由に話して下さい。
- ※3. 大学に入ってから、チャレンジしたいことはありますか？